
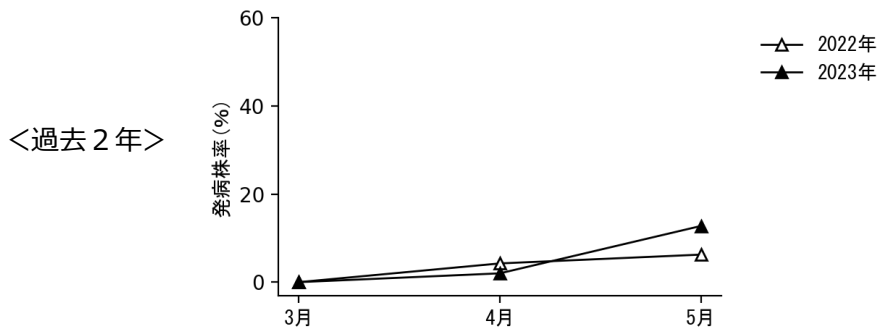
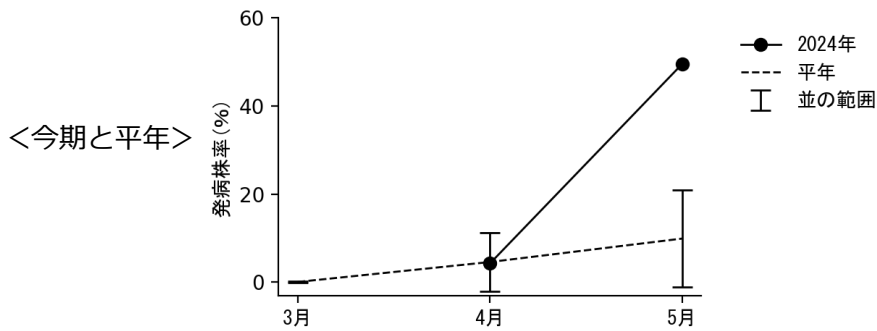


作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	葉いもち病		
調査結果	5月の発生量（平年比）	多	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病株率の推移



・発生ほ場率87.5%（平年：42.8%）

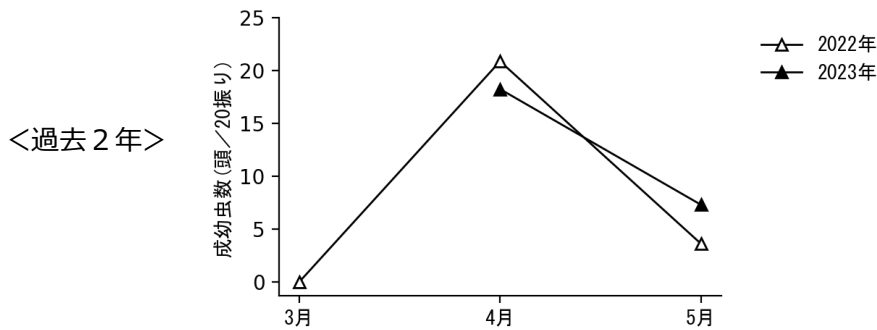
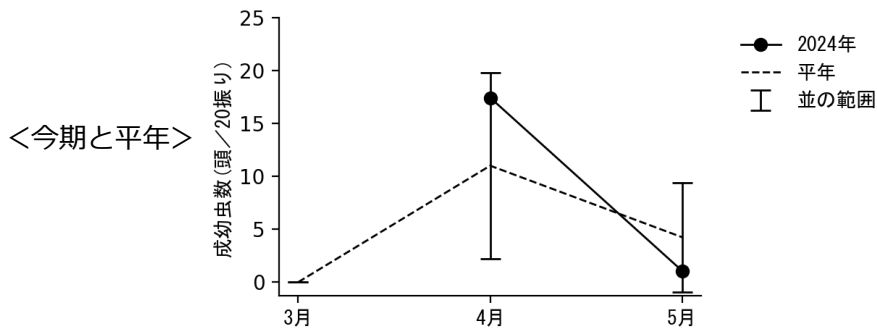
防除のポイント

- ・収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	セジロウンカ		
調査結果	5月の発生量（平年比）	並	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率43.8%（平年：50.8%）

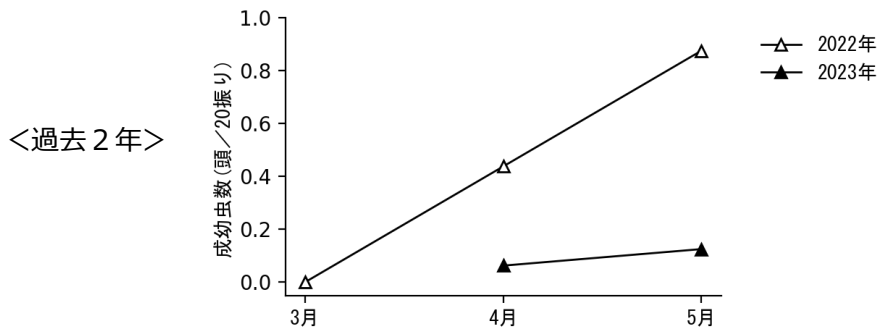
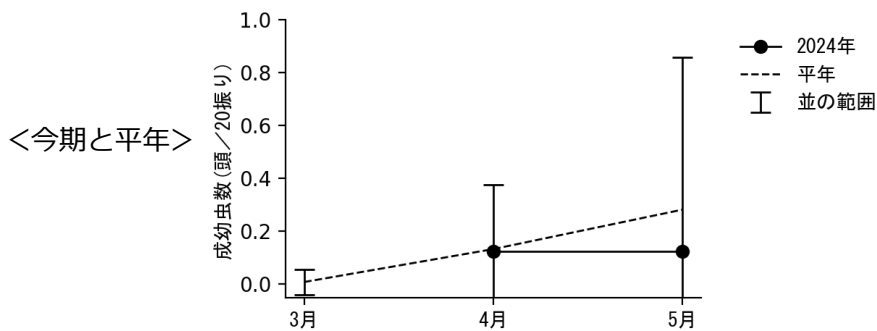
防除のポイント

・突発型の害虫であるため、発生予察情報を注意する。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	ツマグロヨコバイ		
調査結果	5月の発生量（平年比）	並	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率6.2%（平年：11.0%）

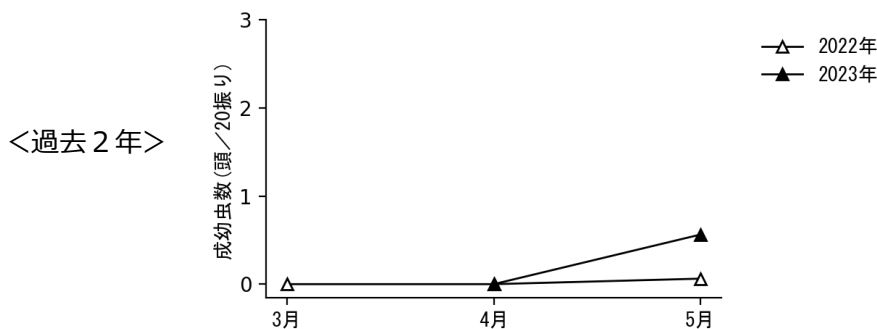
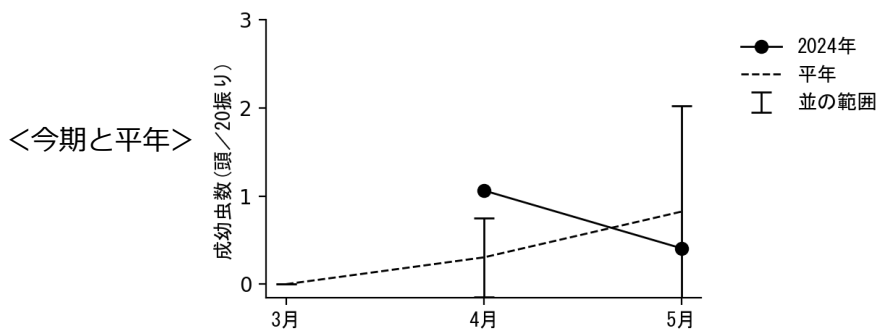
防除のポイント

- ・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	斑点米カメムシ類		 <p>ホソハリカメムシ</p>
調査結果	5月の発生量（平年比）	並	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ホソハリカメムシ、アカカメムシ、クモヘリカメムシ
- ・発生ほ場率31.2%（平年：25.4%）

防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う




クモヘリカメムシ



アカカメムシ

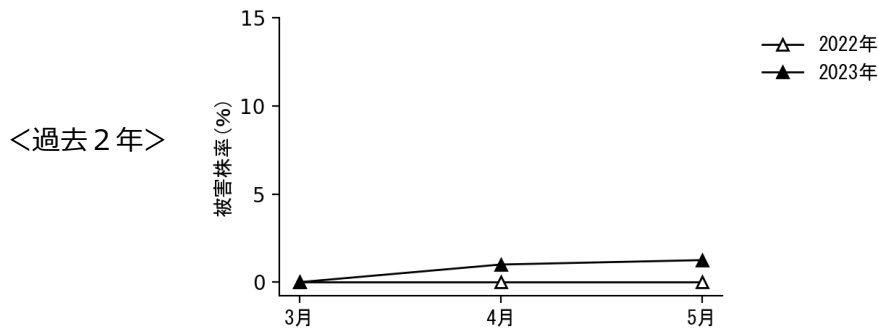
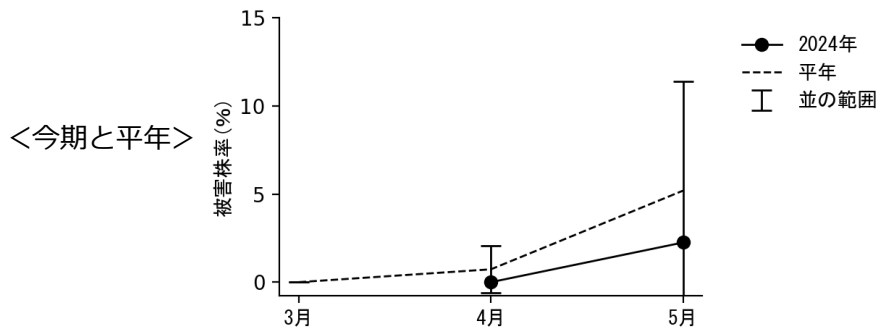


斑点米

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	コブノメイガ		
調査結果	5月の発生量（平年比）	並	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


被害株率の推移



・発生ほ場率18.8%（平年：31.5%）

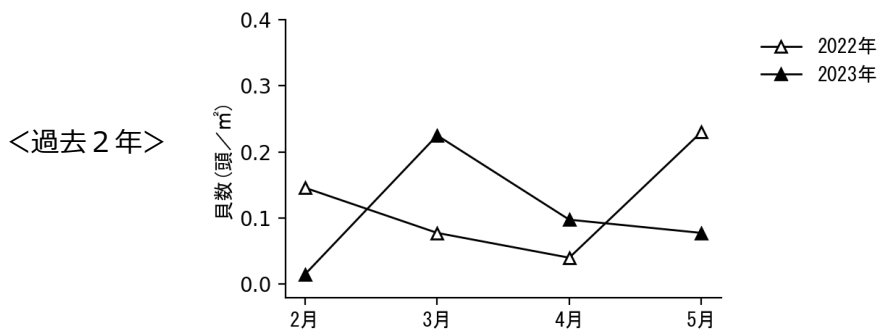
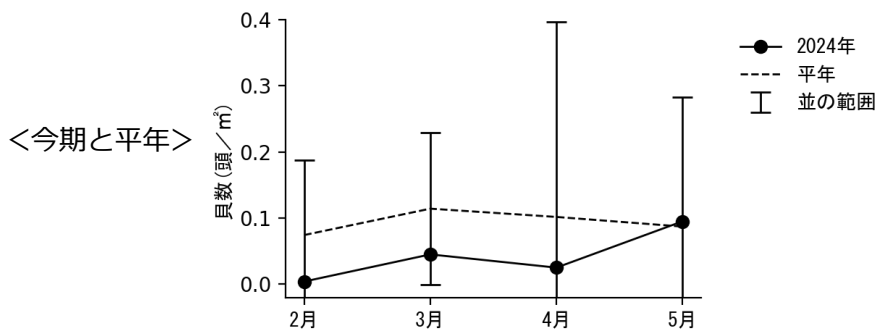
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	スクミリンゴガイ		
調査結果	5月の発生量（平年比）	並	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


貝数の推移



・発生ほ場率43.8%（平年：27.1%）

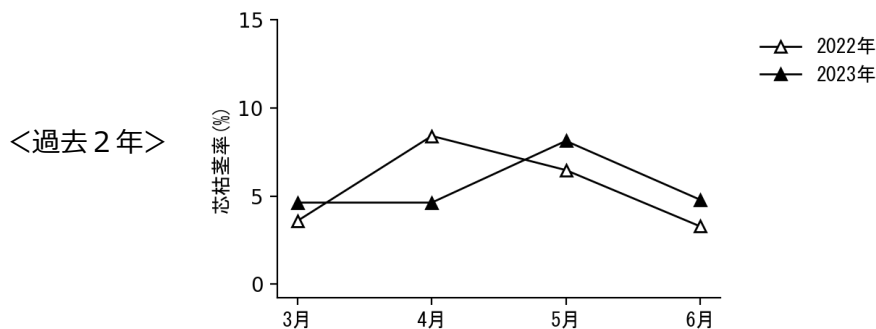
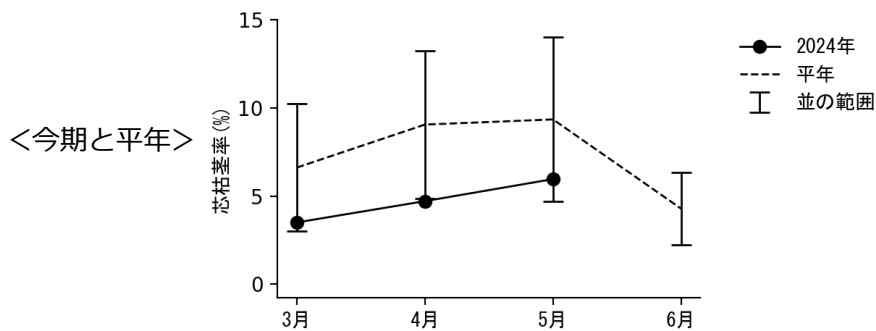
防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。

作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↓		
	6 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


芯枯茎率の推移(株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ (85%)、イネヨトウ (15%)
- ・発生ほ場率91.7% (平年：92.9%)

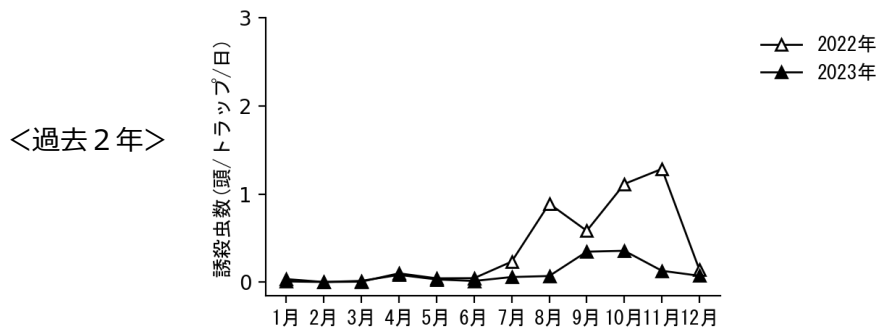
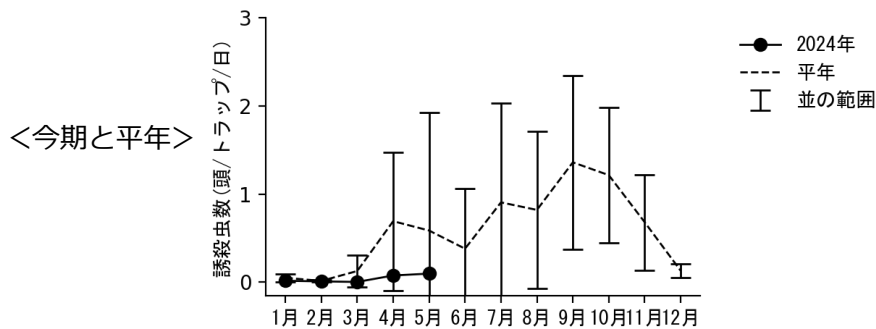
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	5 月からの増減傾向	↓	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率60.0% (平年 : 62.0%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

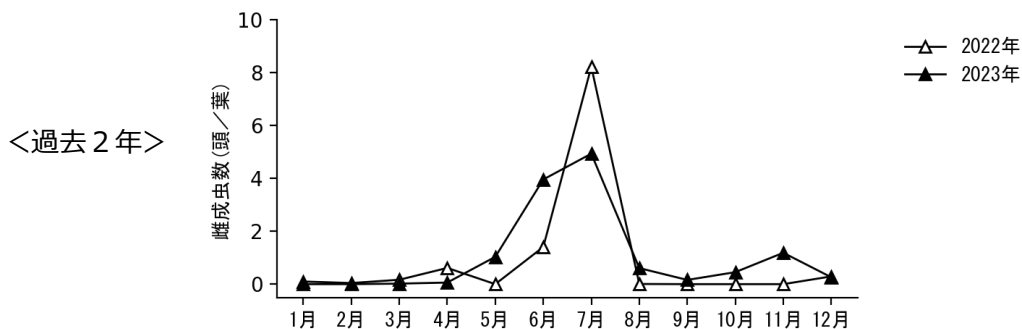
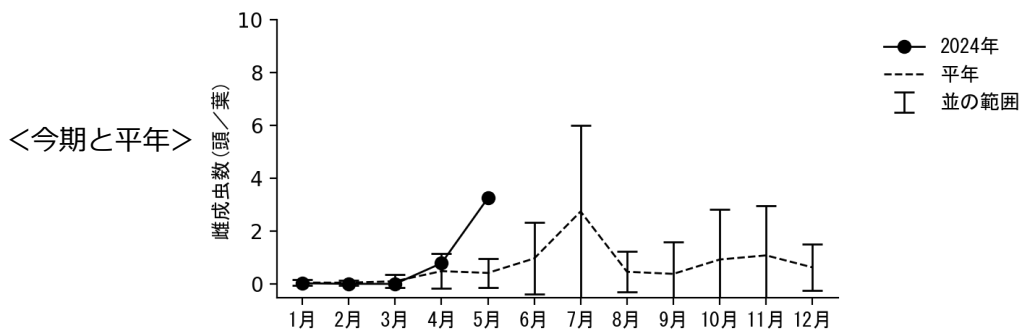


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率80.0% (平年：38.0%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

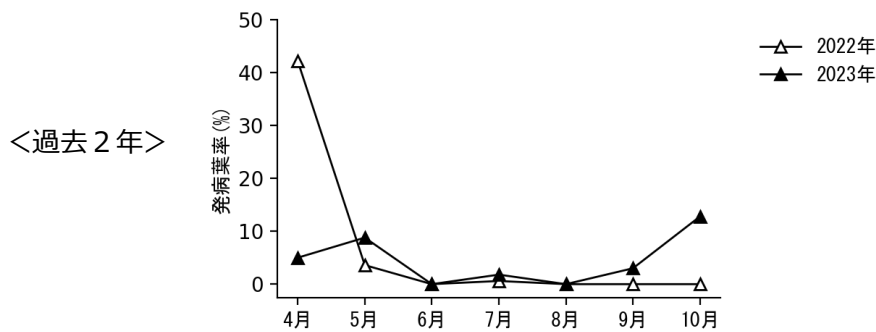
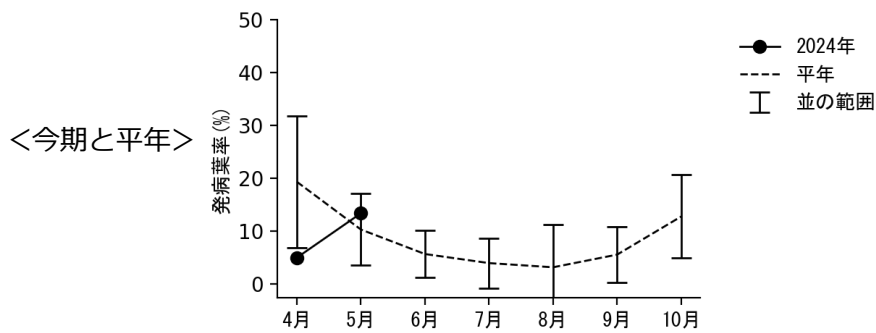


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	5 月からの増減傾向	↓		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 63.8%)

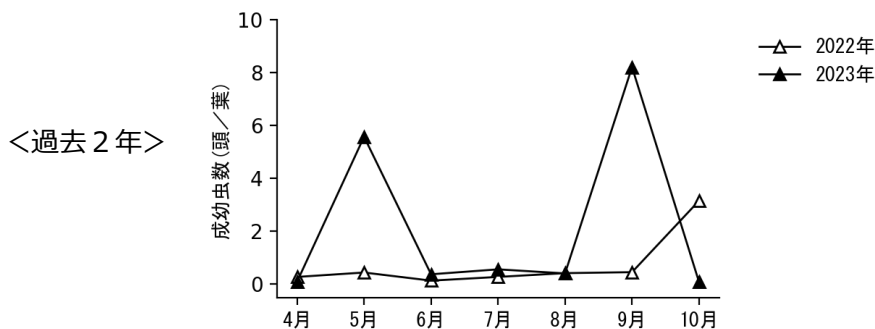
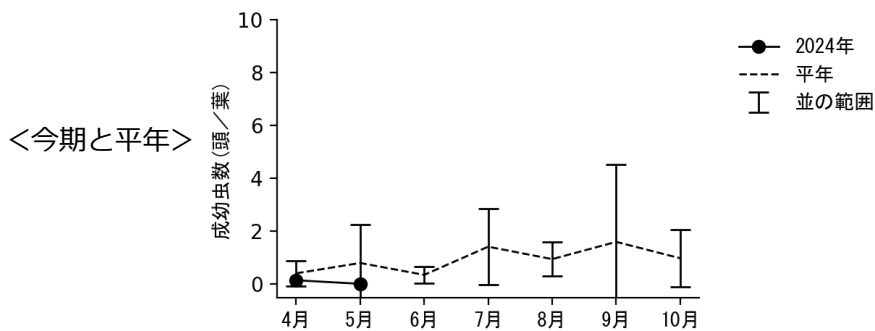
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ			 <p>成虫</p>
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↓		
	6 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率20.0% (平年 : 77.6%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

